

消防署 富来田分署 消防だより

Vol.6 発行日:令和4年11月 発行者:消防署富来田分署

e-mail: sho-fukuta@city.kisarazu.lg.jp

担当:鈴木・長野・栗原 TEL・FAX0438-53-2160

野外焼却行為は原則禁止されています

富来田地区では農業が盛んであり、伐採した木、雑草の焼却を行う方が多数います。この時期は乾燥しているため火の燃え広がりが早く、一歩間違えると火災へ繋がってしまいます。

農業、林業又は漁業を営むためにやむを得ない焼却行為を行う際は、「風の強さ・風向きの確認、消火用具の準備、火の粉や大量の煙が出ないように少しずつ燃やし、火を消すまで絶対にその場を離れない、やむを得ず行う際は日の出から日没までに。」火の取り扱いには十分注意を払っていただくようお願いいたします。また、この地区は16時以降も焼却行為が多くみられるため、日没までには消火を実施する。ご理解とご協力を重ねてお願いいたします。

消防署では、「火災とまぎらわしい煙又は火災を発するおそれのある行為の届出書」を受け付けています。これは火の使用を許可するものではなく、消防署が実施状況を把握するために提出していただくものです。気象状況・煙・異臭による苦情や火災予防上不適切な行為は消防隊が現地にて対応させていただく場合がございます。

やむを得ず焼却行為を行う際は、事前に届出書を本署又は富来田分署に提出して下さい。

緊急走行している救急車の速度が遅いと感じたことはありませんか？

救急車は傷病者を安全に搬送するために、慎重に走行しています。スピードを出してしまうとストレッチャーに横たわる傷病者が跳ね上がるほどの激しい振動が伝わります。救急車の運転手は、傷病者の負担を軽減させるために揺らさないよう道路の凹凸や一般車両、歩行者にも注意しながら走行しています。くも膜下出血や脳出血、痛みを伴う骨折への振動には特に注意を払います。そして、車内では緊急を要する様々な救命処置が行われています。意識、呼吸がない傷病者には胸骨圧迫、電気ショックなど命を救うための処置を行っています。救える命を救うために、これからも更なるご理解、ご協力のほどよろしくお願い致します。

緊急車両へのご理解に感謝しております

ーきさポンからのお願いー ヒートショックに注意してね

ヒートショックとは、急激な温度変化により血圧が大きく変動することで血管や心臓の病気を引き起こす健康被害です。

暖かいリビング⇒寒い脱衣所⇒暖かい浴槽という流れは特に注意が必要です。



きさポン

冬のお風呂場、トイレを暖かくしてヒートショックを防ごう！

- ①脱衣所やトイレを小型の暖房器で暖める
- ②お風呂場の床にスノコやマットを敷く
- ③シャワーで浴槽にお湯をためて浴室全体を暖める

※一人になる浴槽内は注意が必要です。入浴する前に家族に一声かけるように習慣づけましょう。

携帯電話等から119番につながらないときは

- 慌てる事なく、周囲に助けを求め通報をお願いするか、近くの公衆電話を利用しましょう。

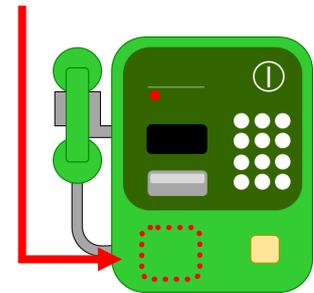
通信・通話障害が発生し、スマートフォンや携帯電話から119番通報がつながりにくい場合は、近隣の方やお店などに119番通報を依頼する、公衆電話を利用する、消防署に直接駆け込むなどのご対応をお願いします。

- 公衆電話からの119番通報のかけ方



- ①受話器をあげて赤いボタン(緊急通報ボタン)を押して下さい。
 - ②発信音が聞こえたら110、119等をダイヤルしてください。
- ※硬貨やカードは不要です。

赤いボタンがない公衆電話の場合



受話器をあげ発信音が聞こえたら110、119等をダイヤルしてください。
※硬貨やカードは不要です。

救急隊のコンビニ等利用について

- 救急隊員のコンビニエンスストアなどの利用についてご理解とご協力をお願いいたします。

救急要請が増加しており、救急隊が消防署に帰ることができず、水分補給や食事をとることが難しい状況が多くなっています。そのため、傷病者を医療機関へ搬送した後、常に救急出動できる体制を維持しながらトイレの利用、水分補給や食事のため病院内の売店・コンビニエンスストア・自動販売機などを利用することがあります。

隊員の健康管理及び救急活動の質を維持するためにも、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



もしも!のときは…

119番